



↑ 鮎を見たり、カメラを見たりと大忙しの子も達です。

大きく育ってネ

そして活気を連れてきて

4 月に入ってから気温の低い日が続き、昨年より約 1 か月遅れの第 1 回放流となった 4 月 27 日。伊久美小児童 33 名との体験放流を含め、伊久美川 4 か所に海産約 30,000 尾 (300 k g) を放流しました。

体験放流では、子ども達が体長 8 c m ほどの稚鮎の入ったバケツを受け取り次々と水の中に放つと、勢いよく泳ぎだす鮎の姿に子ども達の歓声が響きわたりました。報道や市広報の方々にも囲まれて、賑やかな放流となりました。

これを皮切りに 5 月 7 日河口産 35 k g、5 月 10 日他県産 300 k g、5 月 24 日海産 50 k g を伊久美川に放流し、分布状況を確認しながら鮎の成長を見守っています。

続いて大井川本流の放流は、5 月 15 日に人工フ化 300 k g、5 月 24 日海産 200 k g を放流しました。

5 月末までに本支流全体で 1,235 k g の放流を行い、状況により追加放流も検討していく計画です。また、昨年 530 k g 確保した大井川河口の稚鮎採捕は、河口の形状悪化や遡上量の減少からわずか 65 k g (内、焼津水産高校へ 30 k g 配給) の採捕に止まり、鮎の遡上は少なめとなっています。



↑ 試験的に放流した他県産種苗 (約 10 g) とその放流の様子 (犬間) ↓

ピックアップ 大井川上流 (井川ダム) —大吊橋上流—



昨年の台風で奥山 (大島地先) が荒れて土砂崩れを起こし、降雨の度にダム湖に堆積土が溜まっています。

その濁水がサイホンを通して下流へ直に流出することなども、本流の濁りが取れない一因となっています。



2012 年 放流計画 ※太字は実施済

4/27	海 産	300 kg	伊久美川 (小川～二俣)
5/ 7	河口産	35Kg	伊久美川 (川口)
5/10	他県産	300 kg	伊久美川 (川口～犬間)
5/15	人工フ化	300 kg	本流 (赤松、神座、鍋島)
5/24	海 産	200 kg	本流 (赤松、神座、鍋島)
〃	〃	各 50kg	大代川、伊久美川
6 月	人工フ化	300kg	場所未定
合計		1,535kg	(予定)

総代アンケート

組合への注文

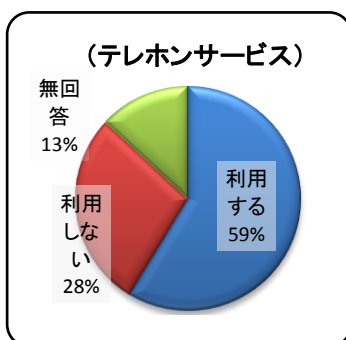
平成26年の漁業権更新に向け、通常総代会などで総代の皆様に組合活動へのアンケート調査をお願いしました。

47名の回答の中から、本号では主に「情報提供」、「漁場管理」の二分野について概要を報告します。

1. 各種情報提供

(1) テレホンサービスについて

本年度より試験運用するテレホンサービスは、総代が大井川沿線に住み、川況の把握がしやすい環境にあることから「利用しない」が28%見られました。また、「利用したい」については、頻度は様々なものの半数以上の割合を示す結果となりました。今後安定した情報提供を行い、利用者を増やしていくことが求められています。

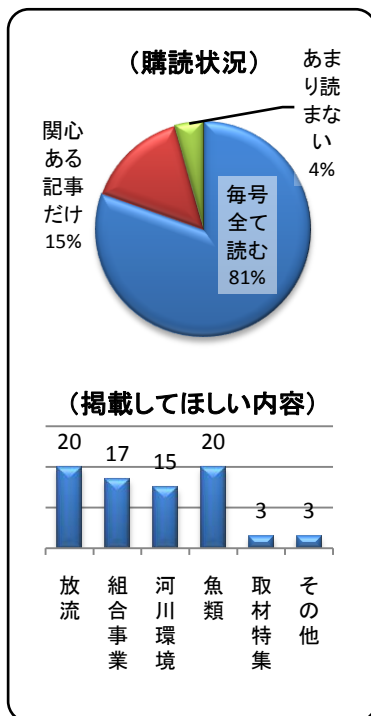


(2) 漁協通信について

年3回発行する漁協通信については、約80%が「全て読んでいる」と回答し、通信が組合とのコミュニケーションツールとしてとても重要な役割を担っていることがわかりました。

内容については、「放流」や「魚類」などへの要望が最も多く、また他の分野についても幅広い情報を求められています。

発行回数は「適当」とする意見が多く、他の広報媒体の活用の方からも、当面この回数で対応していきます。



<アンケートの内容>

1. 組合費（組合賦課金）について
2. 各種情報提供について
3. 漁場管理について

(地区名、年代を記入)

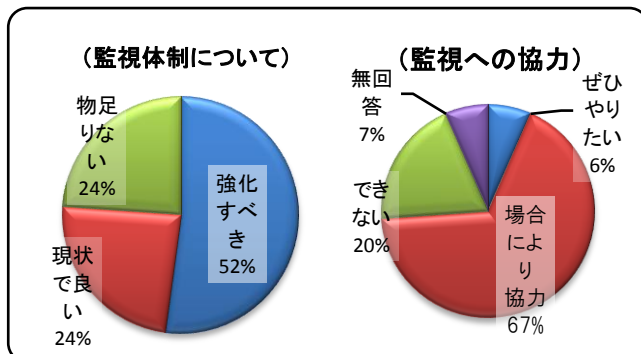
(3) 公式ホームページについて

対象者がインターネット環境にないことから利用者が少ない結果となりました。しかし、ホームページは各種情報を気軽に誰でも見られ、問い合わせも増加しつつあることから、他広報とも連携して利用促進を図っていきます。

2. 漁場管理

(1) 漁場監視について

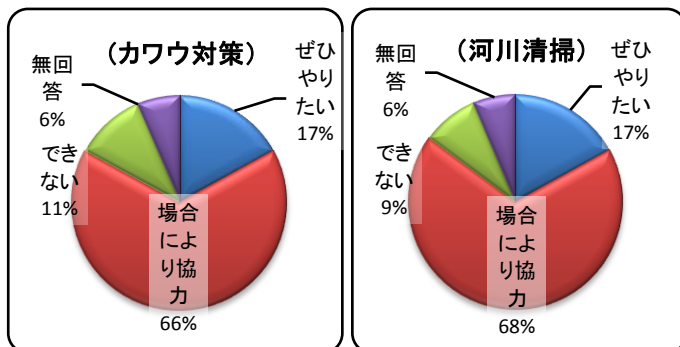
「現状のままで良い」が24%に止まり、監視体制の更なる充実が求められています。また、総代からの協力については「場合による」も含めると7割以上が協力の姿勢を示す結果となっています。



(2) 河川清掃・川鵜対策について

河川清掃・川鵜対策はともに全体の8割以上が参加への意欲を示しています。

「花火を与えてもらえれば、カワウ追い払いに協力できる」との意見もあり、組合の対応次第で各事業の効果が高まることを示唆しています。



新規加入者の推移

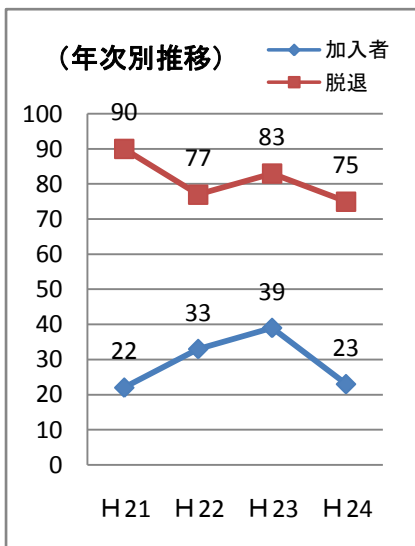
制度発足以降4年間を検証

水産業協同組合法（水協法）の一部改正に伴い、組合員資格審査を実施して、今年で4年になります。

そこで、この間の新規加入者の実態から今後の組合員対策について一緒に考えてみたいと思います。

(1) 年次別加入者別数

(単位：人)



脱退者数 324 人に対し、新規加入 117 人と落差は大きく、4年間を通して減少傾向に歯止めが利かない状況が続いています。

(2) 地区別

地区別	H21	H22	H23	H24	計
北川根	1	1	0	0	2
川根	1	0	0	0	1
伊久美	1	0	3	0	4
金谷	0	3	0	3	6
島田	7	19	15	12	54
大井川	12	10	21	8	41

島田地区が最も多く、次いで大井川地区。

この両地区で加入者全体の約 9 割を占めています。

(3) 年齢別

年齢別	H21	H22	H23	H24	計
20 代	1	1	1	0	3
30 代	4	3	5	3	15
40 代	2	2	5	3	12
50 代	4	10	9	4	27
60 代	10	16	18	13	57
70 歳以上	1	1	1	0	3

60代が57人と約半数を占め、団塊世代が「定年後に腰を据えた趣味を」と加入されるパターンかも知れません。次いで50代が多く、若い世代ほど加入率は低くなっていきます。

今年は『広報しまだ 4/15 号』への募集掲載をきっかけに若い年代が「組合員になれるとは知らなかった」と言って加入したケースも見られました。組合員の減る中、新しい組合員を増やしていくには、引き続き加入時期や内容をアピールすることと、何より「鮎釣り」ファンを増やす努力をする必要があるでしょう。

機関紙「ぜんない」から カワウ試食記

山梨水産技術センター研究員
坪井潤一さんの随筆より抜粋

全国内水面漁連が発行する機関誌
「ぜんない」を少しご紹介します。

カワウを食べる？

放流アユの宿敵、カワウ。漁協組合員の皆さんが放流場所で撃退するにも敵の数が多すぎます。増えすぎたカワウを減らすため、全国で銃器による駆除が行われ、近年ではドライアイスを用いた繁殖抑制も広がりを見せています。(中略)

駆除されたカワウ。食性調査以外の利用方法はないのでしょうか。アユをはじめ美味しい魚たちをたくさん食べるカワウなら、肉も上質で美味しいのでは？本誌の読者なら一度は考えたことがあるでしょう。

下ごしらえ

2011年は、前菜としてカワウの焼き鳥にも挑戦してみました。駆除個体は、血抜きはされていないものの、捕獲後に速やかに冷凍された新鮮な食材です。

幼鳥の肉を切り出し、水洗い後、血管をていねいに取り除きます。次に、胸肉とモモ肉を交互に串に刺し、あら塩をふって下ごしらえは完成です。この時点では「きっとおいしいはず」と誰もが思っていました。

お味は？

試食結果は、血の味に獣臭が相まって、信じられないくらいのもずさでした。私は一人旅が好きで、これまでに20カ国以上を訪れましたが、食べ物でまずいと思ったのはミャンマーで食べたドリアンくらいです。カワウはそのドリアンをもはるかに凌ぐもずさでした。強いて言うならば、モモ肉のほうが、まだ食べられるというレベルです。学生さんたちにも食べてもらいましたが、一人は手が震え、一人は鳥肌がたつほどでした。(中略)

食したものをまずいまずいと騒ぎ立てるのは本望ではありませんが、飽食の時代、カワウ肉は私たちが口にする食材として明らかに不適です。しかし、食べるだけが有効利用ではありません。魚類の大量捕食による水産被害、ねぐらや繁殖コロニーで大量に落とされる糞による森林の衰退。昔の人たちは、この二大短所を鵜飼と肥料という長所に転換させ、カワウとうまく付き合ってきました。ものは考え次第。有効活用の道がほかにもあるかもしれません。もしかしたら、おいしいカワウ料理も…。



写真1

初心者の 鮎友釣教室

<日時> **7月29日(日) 9:00~11:45**

- 鮎の習性、釣具、釣法についての講義
- 鮎の友釣り、ハヤ釣り体験

<場所> **伊久美川(加工体験施設やまゆり集合)**

<参加料>

鮎友釣り 500 円 (中学生以上、おとり1尾込)

ハヤ釣り 無 料 (小学生以下、保護者同伴)

<募集人数> **各20名**

<申込方法> **7月18日(水)〆切**

<その他> **釣具貸出あり(持込みの方優先)**

・詳しくは組合へお問い合わせください。

またお申し込みの際には住所・氏名・人数・ご連絡先等をお知らせください。(保険加入)

第47回地区対抗 第16回関係会社親睦 鮎友釣大会

(日時) 平成24年7月7日(土)

(会場) 大井川本流(予備会場 伊久美川)

※6月中旬~下旬の様子で会場を決定します。

各地区・会社1チーム5名の団体及び個人戦です。
成績は釣果(漁獲)の重量とします。
出場選手については、各地区長にお問い合わせください。

第59回県鮎友釣競技選手権大会

静岡県内水面漁業協同組合連合会が主催する県大会の開催日が決まりました。

<開催日> **平成24年7月1日(日)**

※予備日 7月8日(日)

<会 場> **狩野川**

伊豆市青羽根地先、雲金橋~山ノ神淵

共催: 狩野川漁協 Tel 0558-72-5945
(釣り情報) 0558-72-9600

ご協力をお願いします。

鮎釣り教室開催にあたり、鮎竿を集めています。
使わなくなった鮎竿(6.3~8m)・おとり缶・玉網等がありましたら、ぜひ組合にお貸しください。



1~5月 業務報告

- 1/25 企画運営部会
- 2/ 2 監事会
- 〃 組合員資格審査委員会
- 8 河口産稚鮎需給調整会議(天竜川)
- 14 大井川上流部視察
- 21 第1回理事会 通常総代会提出議案外
- 22 天竜川漁協及び太田川漁協を訪問
- 29 志太榛原農林から治山工事の説明を受ける
- 3/ 9 経営改善対策部会
- 〃 島田土木事務所から工事の説明を受ける
- 10 琵琶湖視察(人工河川の視察)
- 16 伊久美川魚道土砂排除立会い
- 17 通常総代会(プラザおおり)
- 19 利水関係6団体に魚類増殖の要請(計3日)
- 21 平成24年度大井川砂利対策協議会へ出席
- 27 第57回県内水面漁連通常総会(静岡市)
- 〃 関東農政局からサイホン撤去工事の説明
- 4/ 5 資源管理・企画運営部会 放流種苗選定
- 16 カワウモニタリング調査①
- 17 カワウ一斉追払い開始(~4/26、10日間)
- 〃 中部電力と大井川河口あゆ採捕状況視察
- 19 森中学校生徒3名が学習のため来組
- 〃 企画運営部会 釣り教室、各種大会
- 24 高熊地先に玉石還元 トラック72台
- 25 大井川漁場管理運営協議会 漁業権更新等
- 〃 河口産稚鮎30kgを焼津水産高校へ配給
- 26 大井川河川敷地利用協議会(国交省)
- 27 伊久美小児童33名の放流体験
- 〃 カワウモニタリング調査②
- 5/ 1 伊久美川カワウ対策(テグス張り)
- (2チーム、二俣~川口 約70か所設置)
- 2 国交省から工事説明を受ける
- 6 河口産稚あゆ採捕終了(採捕数量65kg)
- 9 組合員資格審査委員会 新加入者の審査
- 10 有害鳥類駆除開始(~5/31 川鵜100羽)
- 15 漁協役職員、監視員研修会へ出席(焼津市)
- 16 県水産資源課で打合せ(漁業権更新外)
- 22 違法漁業取締り協力依頼
- 24 第2回理事会 新加入資格審査 外
- 29 漁協通信第12号発行



編集後記

湧水を「井」、流れを「井水」と呼ぶことから、大井川は「偉大なる水」「大きな流れ」という賛辞が与えられた河川だと聞いています。

しかし、現実はどうでしょうか。先進漁協が提唱する「環境漁協」の発想を、川再生に向け、改めて考えてみたいと思います。

また前号お知らせした「漁場の再生と管理」の実態については次号掲載する予定です。(小林)

釣り情報(テレホンサービス)が始まります。

0547-32-9240 (自動応答)

ぜひご利用ください。